

# 水ある生活 山里にも

蛇口をひねれば出てくるのが当たり前だと思われている「水」。だが、県内の水道普及率①は90・7%で、県の試算では、水道を持たない人のうち約4千人が日常の水に困っているという。県は今年度から、小集落に給水施設を普及させる支援事業を始めた。専門のNPO法人とも協力して水問題の解決を目指す。

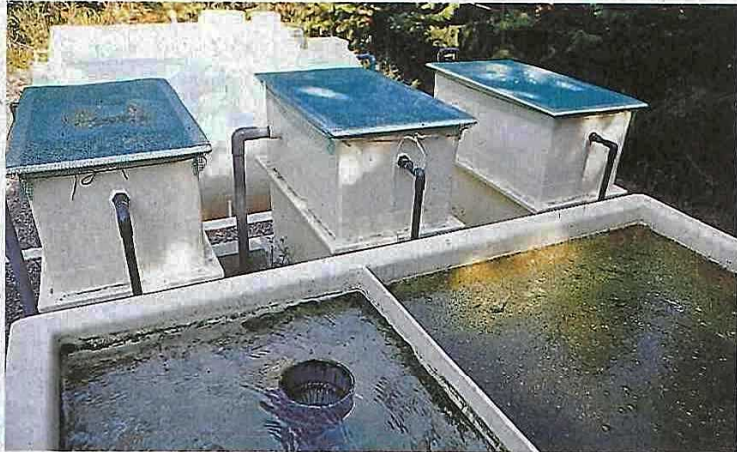


「これほど勢いのある水は出なかった」と話す小矢野清巳さん。宇佐市内町和田

## リポート おおいた

### 官民で装置、濁り解消

宇佐市内町の羽馬礼地区。のどかな山あいの集落に9世帯12人が暮らす。



①昨年3月に設置された簡易濾過装置。手前で荒濾過、真ん中でさらに濾過され、奥のタンクにためられる宇佐市内町羽馬礼②砂利が敷き詰められた荒濾過装置について説明する加藤幹雄さん。宇佐市内町和田



昨年度まで水に悩まされていた。集落近くに、わき水をためるタンクがあり、そこから、そのまま各家庭の蛇口へとつながっていた。普段はきれいな天然水だが、雨が降ると濁る。この問題を解決するため昨年3月、県と市、地元が費用などを負担し合い、NPO法人「おおいたの水と生活を考える会」（大分市、加藤幹雄理事長）が簡易濾過装置を設置した。仕組みは簡単。直径4530mmの砂利を3層に敷き詰

めたタンクに原水を通して荒濾過する。次のタンクに同0・4530mmの砂利を3層に敷き、再び濾過する。「これだけで原水の中の細菌や不純物が取り除かれる。時間をかけて地層に浸透していく井戸水と同じ原理だ」と加藤さん。市の担当者も「昨年は大雨も降ったが、濁った水が出たという苦情は来っていない」。

総事業費約470万円。市によると、標高の低い場所にある上水道から配管を延ばす場合は、水圧を上げ

### 水道普及率

①給水人口が5001人以上の「上水道」②101人以上5千人以下の「簡易水道」③居住人口101人以上の寄宿舎や社宅に設置される「専用水道」の3タイプから給水を受けている人口の割合を示す。小集落の「給水施設」や個人の井戸は含まれない。NPO法人「おおいたの水と生活を考える会」が設置を進める簡易濾過装置は小集落向けの設備であるため、水環境は向上するが水道普及率には反映されない。

るポンプが必要のため、多額の費用がかかる。だが、今回は県の半額補助もあり、地元集落の負担は約45万円。1世帯あたり5万円ほどの手出しで済んだ。隣の和田地区にも同月、

## 183集落 4000人が苦勞

県内の水道普及率は、全国平均の97・6%より低い90・7%。全国47都道府県で44番目の低さだ。市町村別では、姫島村で100%、大分市で99・5%と高い一方、国東市では52・3%、豊後高田市では57・8%にとどまっている。表。

県内の普及率が低いのはなぜか。県環境保全課によると、山の多い複雑な地形で小集落が多く、既存の水道管を延ばす工事としても、その後には徴収できる水道料金が少な過ぎて採算が合わない。要は、財政の苦しい市町が手を付けられず

にいとみられる。近くを流れるきれいなわき水や井戸水で事足りて、水道が必要ないという場所もある。実態把握のため県は今年度、各市町に対し、水道が普及していない地域の調査を指示。その結果、県内の183集落、約4千人が濁水や濁りで日常的に困っていることが分かった。小集落の水問題を解決するため県は2009年、加藤さんら専門家を集めた作業部会を設置。12年度までの4年間に、宇佐市内町の羽馬礼と和田を含む7市12地区をモデル事業として給水施設を整備してきた。今年度から、施設整備費用の約半額を補助する支援事業を本格的に始めた。「水と生活を考える会」のノウハウを生かし、水量不足や水質悪化の度合いなどを急を要する所から整備する方針だ。まずは年度内に、1200万円の予算で15カ所の完成を目指す。県環境保全課は「市町の調べで、30カ所は緊急性が高いと判断している。できるだけ早く整備を進めたい」と説明している。（河合達郎）

### 市町村別の水道普及率

1位	姫島村	100.0%
2位	大分市	99.5%
3位	佐伯市	98.9%
4位	別府市	98.8%
5位	津久見市	97.7%
全国平均		97.6%
6位	臼杵市	96.8%
7位	由布市	94.8%
8位	日出町	93.0%
9位	日田市	91.6%
県平均		90.7%
10位	杵築市	81.0%
11位	中津市	77.1%
12位	宇佐市	75.8%
13位	豊後大野市	67.3%
14位	玖珠町	66.8%
15位	九重町	65.8%
16位	竹田市	65.1%
17位	豊後高田市	57.8%
18位	国東市	52.3%

12年3月31日現在。県環境保全課まで